

日本ホーリネス教団戦争責任告白に基づく戦後 70 年の祈り

～ネヘミヤの悔改めと再建の祈りに重ねて（ネヘミヤ記 1 章 4～11 節）～

いつくしみ深く、大いなる恐るべき神さま¹。

わたしも、わたしたちの父の家も罪を犯しました²。

ネヘミヤが父祖の罪に気いたときに、罪の内に滅んだ祖国のために嘆き、再建を求めて祈りました³。わたしたちも、先の戦争で教会が犯した罪責を想起し、戦争責任告白の悔い改めに立ち帰り⁴、再建を求めて平和の祈りを捧げます。

わたしたちの教会は、日本が軍国主義によって近隣諸国を侵略したときに協力し、アジア諸国に辛苦を味わわせました。

わたしたちの教会は、神社参拝と天皇崇拜という偶像崇拜の罪を犯しました。

わたしたちの教会は、ホーリネス弾圧の時に、かつての同心の友を切り捨てる発言をしました。

このように、わたしたちの教会は、あなたのしもべモーセに命じられた十戒と主イエスが教えられた愛の律法を全うできなかったことを悔い改め、その結実を願い歩んできました⁵。

どうぞ、主よ、あなたの御名を恐れるしもべの祈りに、耳を傾けてください⁶。どうぞ、ネヘミヤの時代のように外なる教会の再建と、内なる霊の回復を与えてください。どうぞ、十字架によって、わたしたちの魂と生き方を作り変えてください⁷。

身近な社会の傷み、度重なる災害、民族間の敵意、テロの脅威。それらの暗雲が世界を覆う時代だからこそ、十字架を背負われる主イエスに従い、和解の福音に生きる道を、真実に歩む者とならせてください。

主の御名によって祈ります。アーメン

※和解委員会ホームページ（<http://www.jhc.or.jp/wakai/>）

戦争責任告白の全文（<http://www.jhc.or.jp/wakai/Confession/japanese.html>）

¹ ネヘミヤ記 1 章 5 節

² ネヘミヤ記 1 章 6 節

³ ネヘミヤ記 1 章 4 節

⁴ 日本ホーリネス教団戦争責任告白

⁵ ネヘミヤ記 1 章 7 節

⁶ ネヘミヤ記 1 章 11 節

⁷ ネヘミヤ記 1 章 10 節

1. 背景「日本ホーリネス教団戦争責任告白に基づく戦後70年の祈り」

わたしたち日本ホーリネス教団は1997年3月に開催された第34回教団総会において、「日本ホーリネス教団の戦争責任告白に関する私たちの告白」を決議し、主の御前に、また教会と世界に向けて、罪責告白を言い表しました。その土台となった御言葉は、神の民の罪深さゆえに国が滅んだ捕囚期のネヘミヤによる悔改めと再建を切望する祈りの記事です。

これらの言葉を聞いた時、すわって泣き、数日のあいだ嘆き悲しみ…言った、「天の神…大いなる恐るべき神よ…しもべの祈を聞いてください。わたしは今、あなたのしもべであるイスラエルの子孫のために、昼も夜もみ前に祈り、われわれイスラエルの子孫が、あなたに対して犯した罪をざんげいたします。まことにわたしも、わたしの父の家も罪を犯しました。…あなたのしもべモーセに命じられた戒めを…守りませんでした。…主よ、どうぞしもべの祈と、あなたの名を恐れることを喜ぶあなたのしもべらの祈に耳を傾けてください。」(ネヘミヤ記1章4～11節・抜粋)

この戦争責任の罪責告白を、聖化の信仰と和解の福音の実践として、実を結ぶことができる願いをこめて、以下のように記しました。

「今後、私たちの教会は、『日本ホーリネス教団の信仰告白』に基づいて、神のみこころに適う教会の形成を目指します。また、歴史に学ぶことを忘れずに、私たちが置かれている時代と社会の状況を見極めることができるような体制によって、社会への責任を果たすことを目指します。そして、アジア諸国の人々の心情を理解することを努めるとともに、特に私たちに与えられている、アジア太平洋地域ホーリネス教会連盟の交わりを豊かなものとすることを目指します。」(戦争責任告白・第34回教団総会、1997年3月)。

戦後70年を迎える2015年は、戦争責任を言い表してから18年になります。積み重ねてきた和解の福音の実を感謝しつつ、教団の戦争責任告白を、戦後70年の平和祈禱として共に心に刻みたいと願っています。18年の間に信仰が育まれた教団の次世代の方々にも、和解の福音の使命を共有していただき、共に立ち上がりたいと願っています。

2. 平和祈禱の提案

上記のことから、牧師先生、並びに教会役員会におかれましては、この「日本ホーリネス教団戦争責任告白に基づく戦後70年の祈り」を、戦後70年を記念する2015年にぜひ、教会で用いて頂きたいと願っています。①掲示板での掲示、②教会の学び会、③礼拝や祈禱会で会衆の共なる祈り(特に、弾圧記念日6月26日、敗戦記念日8月15日に近い集会)など、それぞれの教会に合う方法で、戦責告白を思い起こしつつ、平和を祈ることを提案いたします。